

第4章中世社会の成立 1. 院政と平氏の台頭

(1) 後三条天皇の政治と荘園制

※ 11世紀なかごろ、[後三条天皇]が即位し政治改革を始める

[後三条天皇]の母は皇族 つまり摂関家を外戚としない・・・政治上、摂関家に配慮する必要がない

※ [後三条天皇]の政治改革

・ 1069年 [延久の荘園整理令]

政府に [記録荘園券契所] ([記録所]) を設けて荘園を審査

基準に合わない荘園を停止 1045年(寛徳の荘園整理令)以降に設置された荘園は原則的に停止

摂関家の荘園も対象

・ [宣旨栞]の制定・・・度量衡(度:長さ 量:体積 衡:重さ)の統一を図る

※ 荘園公領制の成立(11世紀後半ないし12世紀以降)

・・・荘園整理により荘園の存在が明確化 → 院政期以降荘園が増加(教P89図)

→ 公領(≡ [国衙領])と荘園が、ほぼ半分ずつ状況に

公領では・・・[郡・郷・保]の設置・・・開発領主など新興勢力を郡司・郷司・保

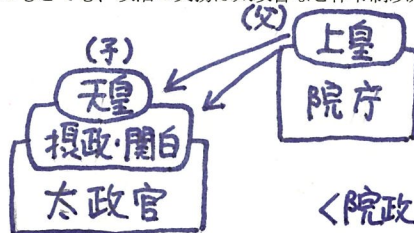
司に新たに任命・・・徴税を請け負わせる(首都圏は受領者、税の変遷に留意、官物・臨時雑役、

※ 12世紀ごろ以降、それまで名の耕作・徴税を請け負っていた [田堵] が権利を強化し、[名を事実上支配するようになって] [名主] と呼ばれるようになった。

(2) 院政の開始

※ 白河天皇が1086年退位し [白河上皇] (上皇=太上天皇の略) となり、院政を開始

上皇の権力のもとでも、政治の実務は太政官など律令制以来の政府機関が中心となっていた



・ 退位した天皇=上皇は複数いることが多かった。上皇たちと天皇の中でのリーダー(天皇家の家長)を、当時「治天の君」と呼んだ。白河上皇や鳥羽上皇、後白河上皇は「治天の君」である。

<院政概念図>

※ 「院の近臣」: 院の「側近グループ」 受領層など中下流貴族が構成メンバー

「院庁下文」: 院が荘園などを管理するためにおいた政治機関(院庁)から下される文書

院庁には院の近臣、院司と呼ばれる上皇と個人的な関係の深い貴族が集められ、業務を行った

「院宣」: 上皇の命令を伝える文書

「法皇」: 出家した上皇

※ 院政は、[白河上皇] → [鳥羽上皇] → [後白河上皇] と、11世紀末から12世紀にかけて、1世紀以上にわたって続いた

○ 院政の特徴

国司(受領)は官人としては身分が低く、摂関家など荘園領主に對抗できない。

※ 受領などの支持を得た・・・受領たちは院の権威を借りて、摂関家など荘園領主と対抗

※ [知行国制]・[院分国の制度]が始まる

・ 知行国制とは?

(院(上皇)が知行国主になる、と考えていいと思います)

律令制下の貴族には、位階や官職に応じて、位田・位封・職田・職封や封戸が与えられ、大きな収入源になっていた。このしくみは、摂関政治期まで続いたが、院政期には機能しなくなった。政府は、有力貴族の収入を

確保させるため、「国」(知行国)の支配権を与え(知行国主)、その国からの収益を得させた。

権力を握った院・天皇家に、今度は荘園の寄進が集中 → 天皇家は、集まった荘園を

「長講堂領」「八条院領」といった荘園群にまとめ、財産とした

・・・天皇(あるいは治天の君)になると、この莫大な天皇家の財産を自由にできる。

天皇になんていけば、僧侶になるしかない → 天皇位をめぐって争いが激化

保元の乱
平治の乱
の格闘

教. P88に復原模型の写真あり。
 右手に見える本造九重塔は、
 100m近い高さがあった。
 現在の平安神宮あたり
 (神園の北側に)にあった。

※ 上皇(法皇)が仏教を保護

- ・白河天皇(上皇)が、京都東方郊外の白河に[**法勝寺**]を建立
 →その後も上皇たちにより次々と巨大寺院が建立された(まとめて[**六勝寺**])
- ・上皇たちは、**熊野詣**や**高野詣**を何回も行った 熊野も高野山も世界文化遺産に指定

※ 武士を政治に利用

- ・当時大寺院は[**僧兵**]を組織し、軍事力を背景に、朝廷に対し[**強訴**]を繰り返していた

ex. 南都(=奈良)[**興福寺**]の僧兵 =春日社の神木を捧げて強訴
 北嶺(=比叡山)[**延暦寺**]の僧兵=日吉社の神輿を担いで強訴
 → 天皇家の人々や貴族たちは無抵抗 **延暦寺の僧兵のこ.**

- ・「思い通りにならないものは鴨川の水、双六の賽と[**山法師**]]」(by 白河上皇)
 →「抵抗できるのは(仏罰を恐れない)武士しかいない」・・・武士登用のきっかけ
 (加えて西国に横行していた海賊対策の担い手として=主に伊勢平氏一族が担当)

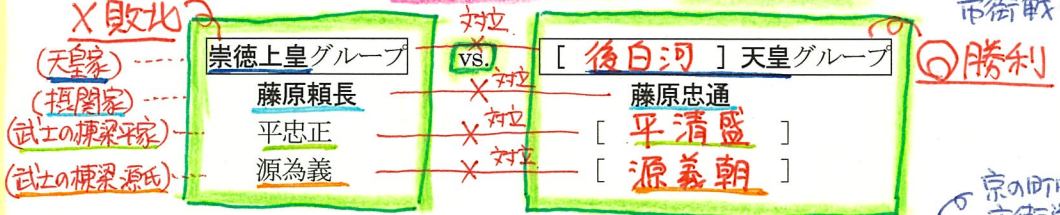
- ・白河上皇は、院の軍事機関として[**北面の武士**]を設置 **祖父 父 孫**
 ...登用された伊勢平氏の勢力が拡大した(平正盛→平忠盛→平清盛)
 → 政治上の争いを武力で解決しようとする風潮が強まっていく

**保元の乱
 平治の乱の背景に**

家の中の争いに勝てば、莫大な荘園群を自由にできる。

(3) 保元の乱・平治の乱

- ① 天皇家、摂関家、**武士の棟梁**の家 それぞれにおいて相続を巡る争いが激化
 →鳥羽上皇の死をきっかけに戦乱へと発展(1156年[**保元の乱**])



- ② その後、勝った後白河グループの中で戦争が起こった(1159年[**平治の乱**])



- ③ 勝った平清盛がしだいに政治権力を握っていく (→ 平氏政権へ発展)

敗れた源義朝は殺された。
 義朝の子源頼朝は伊豆へ
 島流し(追放刑)。源義経
 は寺に身を隠した。

(4) 東北地方では...

- ※ 11世紀末の[**後三年合戦**](1083年~)の後、東北地方では[**藤原清衡**]の勢力が拡大
 (本拠地=[**平泉**]) 世界文化遺産に指定

- ※ その後、その子孫(**奥州藤原氏**)が東北地方を支配

(藤原清衡 → 藤原基衡 → 藤原秀衡 → 藤原泰衡)

「藤原清衡」とは何者か? 父親は 藤原経清 (陸奥国の在庁官人、祖先は藤原秀郷)

母親は 安倍氏の娘 (経清と結婚し清衡を生む)

父経清は、前九年合戦で安倍氏とともに滅亡、母は清原氏一族と再婚。成長した清衡は、後三年合戦で勝利し、東北地方を掌握、本拠地を平泉へ移した

第4章中世社会の成立 1. 院政と平氏の台頭

(5) 平氏政権

※ 保元の乱・平治の乱の後、後白河上皇の信任を得た [平清盛] が権力掌握へ

※ 1167年、平清盛は [太政大臣] となり、一族で高位高官を占める … 「平氏政権」

※ 1179年、平清盛はクーデターを起こし国家権力を完全に掌握 「平氏にあらざるば人にあらず」

○ 平氏政権の特徴 (武力によって政権を掌握し、奪取すること)

※ 平氏一族で、朝廷の高位高官を独占した

※ 清盛の娘 [徳子] (建礼門院) を高倉天皇の中宮 (妻、お妃) にし、生まれた子を即位させ ([安徳天皇])、天皇と [外戚] 関係をむすび権力の基盤とした

※ 一族で、全国諸国のおよそ半数の [知行国主] となった

※ 一族で、500カ所を超える [荘園] を所有した

※ 諸国の受領となった立場を利用して、西日本を中心に地方在住の武士たちと主従関係を結び、荘園の地頭に任命するなどして、武士たちを組織化した

※ [宋 (南宋)] との貿易に力を入れ (日宋貿易)、利益を上げた

・南宋から渡来する商人は、北九州の [博多] に主に渡来していたが、彼らを都近くまで招き入れるため、[大輪田泊] (現神戸港) の修築や、音戸の瀬戸の改修など、瀬戸内海航路の整備に努めた → 新詳 P104

・日宋貿易における日本の輸出品・輸入品

輸入品: [宋銭]・書籍・薬品など 輸出品: 金や硫黄、刀剣など

(宋銭が輸入される前の日本では、米や布が貨幣の代替として使用されていた)

・平氏政権は一時、大輪田泊の隣接地に [福原京] を造営し遷都 (1180年)

【10～13世紀の東アジア情勢】… (この部分なので、ちゃんと理解して、把握して下さい。)

西暦	黄河流域	長江流域	朝鮮半島	日本の情勢
950	(五代十国)		918年～ [高麗]	
1000	960年～ [宋] (北宋)			(摂関政治全盛) …… 1019年 [刀伊の入寇] 女真族が博多に来襲 藤原隆家が撃退
1050				
1100				
1150	1127年～ [金] 北方遊牧民系の国家 もと女真族	1127年～ [南宋]		(院政) (平氏政権)
1200				
1250	1234年～ モンゴル帝国 1271年～ [元]	1279年滅亡	1259年 モンゴルに降伏 (～1273年) [三別抄の乱]	(鎌倉幕府) 1274・1281年 元寇
1300				

※ 貴族の中で、平氏への反発が強まる

ex. 1177年 [鹿ヶ谷の陰謀] …平氏政権打倒を画策した貴族たちを処罰した cf. 俊寛

→ 平清盛は 1179年、後白河法皇を監禁し、平氏の独裁政権を樹立 ますます反発を買った

貴族政権的特徴と、武士政権的特徴をあれど持つのが、平氏政権の特徴

日宋貿易について

摂関政治のころの中国を渡来する商人の宋

院政のころに中国北半を金が支配

平氏政権の貿易相手は南宋

モンゴル民族元が中国を統一

摂関政治や院政など、貴族政権的な性質

鎌倉幕府など、武士政権的な性質

鎌倉幕府が発行した本朝十二銭は、京とその周辺では流通せず、100%以降はほとんど流通しない状況だった。

よって日宋貿易により大量の宋銭が輸入された。

(6) 院政期の文化

※ 11世紀後半～12世紀の文化 = 院政期文化 (平安末期文化)

※ 天皇・貴族たちの間に「庶民へのまなざし」が生まれ、庶民文化を吸収

※ 地方への文化の広まりもみられる

○ 建築

浄土教がさらに広まる (聖(ひじり)の活動が活発化)

→ 阿弥陀如来を拝むための特殊な建築 = [阿弥陀堂] 建築が流行 → 新詳 P105

ex. [中尊寺金色堂] : 平泉(岩手県) by [藤原清衡] 『世界文化遺産』指定

[白水阿弥陀堂] : 福島県 ... 奥州藤原氏の血縁者が建立

[富貴寺大尊] : 国東半島(大分県) 教科書 P.94 に写真あり

高蔵寺阿弥陀堂 : 宮城県角田市 ... 宮城県内で現存する最古の建築

・ [厳島神社] (広島県) : 瀬戸内海航路の要(かなめ)に鎮座 → 平清盛が修復

・ [三仏寺投入堂] (鳥取県) ... 険しい山の上の、さらに険しい崖の上に建っている

安芸国(広島県)の
国司(宇治町)。
厳島神社がある。

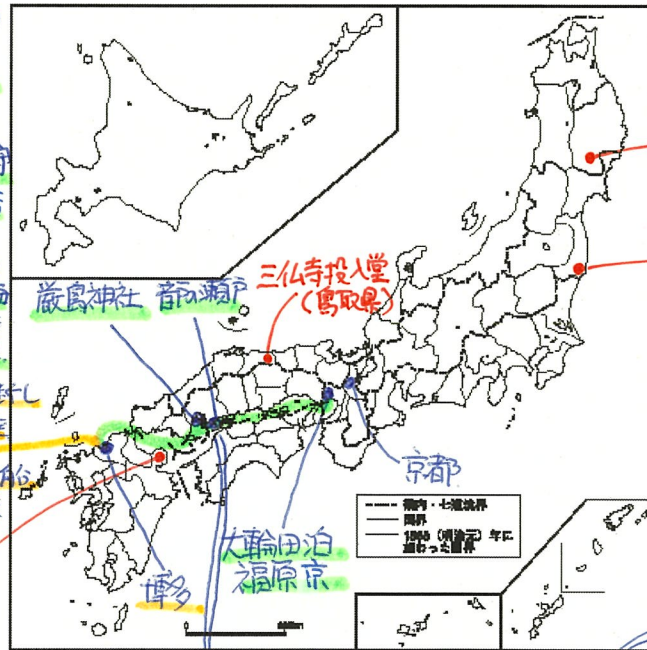
大宰府の長官
大宰府は
博多を管理
している。

平清盛は安芸守
や大宰大貳を務
めたことがあり、
その際に博多の
商人や瀬戸内海
航路との関係と
つながりがある。

東シナ海を横断し
宋と日本の間を

東の貿易船
が行き来
する

富貴寺大尊
(大分県・国東半島)



中尊寺金色堂
平泉(岩手県)

白水阿弥陀堂
(福島県いわき市)

地図でわかることが
多い
・ 院政期の建築の位置
・ 日宋貿易に関連する
地名

大輪田泊 福原京は
現在の神戸市にある。
当時ここには、平清盛の
荘園があり、清盛の
別荘もあった。

宋の貿易船を瀬戸内海と経路で
京の近くの大輪田泊まで運ばせようとした。

○ 絵巻物 → 新詳 P106～

・ [信貴山縁起絵巻] ... 大和国(奈良県) 信貴山寺の創建にまつわる話(縁起)を絵巻物化

・ [源氏物語絵巻] ... 言わずと知れた紫式部の名作を絵巻物化

・ [伴大納言絵巻] ... 866年に起こった[応天門の変]を絵巻物化 → 教 P95 写真

・ [鳥獣戯画] ... 動物を擬人化、社会状況を風刺 詞書(ことばがき)がなく内容の詳細不明

○ その他 → 新詳 P107

・ 絵画 : [平家納経] : 平清盛らが厳島神社に奉納 → 教 P95 写真

[扇面古写経] : 形が独特ですね → 教 P95 写真

・ 歴史物語 : [大鏡] : 摂関政治を批判的に描写

[栄華物語] (by 赤染衛門?) : 摂関政治を肯定的に描く

・ 軍記物語 : [将門記] : 平将門の乱を描く 『陸奥話記』 : [前九年合戦] を描く

・ 説話物語 : [今昔物語集]

・ [今様] (庶民の流行歌) 流行 → [後白河上皇] が『梁塵秘抄』を著して集成
上皇(天皇)が今様を好み、それを集成して書物にするのは、とても異例のこと。